

虚子記念文学館投句特選句

・令和七年五月

稲畑廣太郎 選

大空に矢車響く風の詩

京都 西村やすし

稜線につるぎ舞ひけり春の雷

兵庫 吉田知子

若葉風三師の句碑のしるき文字

新潟 安原 葉

一滴にまた一滴に新茶の香

兵庫 道中義臣

白い雲のせてヨツトの走り出す

香川 藤岡正子

煩惱とともに押し出す心太

和歌山 中島紀生

更衣母のにほひの襟のまま

東京 清水ぽっぽ

入学児やうやう慣れし頃の熱

三重 中島庸子

風薫る路地に明るき行き止まり

兵庫 太平楽太郎

小満のペンをはさんだ足の指

滋賀 太田 慈

(青少年)

入選句・令和七年五月

片麻痺の母の菖蒲湯介助して	埼玉	小田毬藻	山一つ学園と思ふ桜舞ふ	兵庫	小川孝子
慎ましき一日の終り新茶淹る	兵庫	宮本露子	蕎麦や遙けき湖の風を呼び	兵庫	中村恵美
テント背に急ぐ青年遍路道	三重	池本準一	稜線に五月の起伏生まれけり	兵庫	奥田好子
霊峰の湧水で淹れたる新茶	奈良	堀田建夫	絵馬殿を包む木洩れ日大原志	香川	葛原由起
母の日や米と現金ありがたき	兵庫	森岡喜恵子	目印としたる桜も葉となりぬ	京都	山崎貴子
子等と呼び森息づくやみどりの日	兵庫	山之口倫子	行春を虚子館に来て見送りぬ	徳島	多田まさ子
兄弟の冒険旅行子供の日	大阪	北上美佐子	大原志かつて宿場となりし街	大阪	西尾浩子
初花や個性色めくランドセル	奈良	河村久美子	げんげ田のパステル色の点描画	大阪	多田羅紀子
泥んこの子を又洗ふ薄暑かな	大阪	杉山千恵子	桜貝いつも主役はあの子なり	兵庫	吉村玲子
ニアミスのやうな挨拶つばくらめ	兵庫	高野さち	虚子館の五月の風と語る句碑	大阪	林 曜子
理科室のバケツがさごそ夏はじめ	兵庫	小柴智子	蚕豆や空めざすかに登るかに	兵庫	槌橋眞美
山場へと笛が導く壬生狂言	大阪	若林友子	筍飯さまし子のフィアンセを待つ	兵庫	永沢達明
全身で伸びする赤子風光る	兵庫	上岡あきら	風新たあらたに新樹の葉を揺らし	鳥取	棕 誠一朗
葉桜や金婚記念遙か過ぎ	兵庫	平田 恵	母の日の炊き込みごはん母仕込み	兵庫	入谷千恵子
青空に凭れかかりて八重桜	兵庫	川村ひろみ	存分にそそぐ光や館五月	兵庫	深尾真理子
ナイターの果てて静まる闇の奥	兵庫	田村恵津子	大木の一樹を枯らし藤揺るる	鳥取	棕 則子
山吹の光もとめてこんもりと	兵庫	黒田千賀子	また会へし山の桜と小半日	石川	辰巳葉流
春日山帳となりて懸り藤	奈良	山口廣世	黒板の卒業式の強き跳ね	富山	三河三河
ほつとしてゆつくり新茶なりしかな	三重	松村咲子	母の日や電話の声は若々し	奈良	堀ノ内和夫
天辺は雲に触れたる懸藤	奈良	堀田ますみ	ひとしきり風を撫でたる若楓	兵庫	足立朱麻
ぼうたんの深みのわかる齢かな	兵庫	谷本逸歩	身に入むや潮み櫓の塩じめり	兵庫	三木ヤエ子
しづもれる汀子邸にもある薄暑	兵庫	中村澄子	矢車の音も日本晴なりし	大阪	須知香代子
草笛はとぎれとぎれを繋ぎをり	大阪	藤本公子	生き様のやうな大木楠若葉	兵庫	池田文子
恋ばなをひとしきり聞き新茶汲む	大阪	ふじもと言果	母の日や看取りの日日も懐かしき	大阪	河辺さち子

子を持たず死んでゆくなり笹粽	大阪	押見げばげば	手水鉢溢れさせたる薄暑かな	神奈川	齋藤苑子
島人の漁り休む牛相撲	兵庫	町田葦たか	踏切を待つ三分の暑さかな	愛媛	星月彩也華
荒南風や布巾一枚今いずこ	愛知	海神瑠珂	こるり来て雲の境のあをさかな	三重	水越晴子
水尾太く夏霞へと旅立てり	兵庫	池田雅かず	機関車は引き込み線へと罌粟の花	愛知	小野 薫
南方より戻りし遺髪星涼し	大阪	富永武司	夏の胸大きくなって盗まれる	熊本	貴田雄介
漱石の「こころ」を考へるゼリー	大阪	椋本望生	産屋より命綺羅めく大原志	京都	杉森大介
ランチメニュー選るテラス席初夏の風	石川	白根寿子	傾聴の午後に合わせて夏の蝶	兵庫	恵島祥一朗
朝霞白鷺城は動かさる	愛知	稲垣祐司	苺フェアにゃんにゃんにゃーと給仕ロボ	滋賀	近江堇花
無藝荘時さかのぼる夏座敷	兵庫	松本 敬	待望の虚子記念館梅雨晴間	香川	井口直美
喜寿なれや白寿さながら時計草	大阪	森重深鶴	滴れる山を出て来て虚子を訪ふ	香川	梶村恭子
軽トラは顔せり出して夏の坂	滋賀	太田怒忘	飛石の先のベンチに見る緑	香川	大井幸子
新樹光白砂に青き日の斑かな	大阪	田邊育子	あの冬を三十年過ぎんと忘れじと	大阪	木下 環
さ緑の風を引きつれ新樹晴	兵庫	日下富貴子	仏性と野性のはざま著我の花	兵庫	伊集院秀樹
大空へ意気込むうねり楠新樹	兵庫	二瓶美奈子	1番の背番号縫ふ夏はじめ	東京	桜鯛みわ
クレマチス出会ひを結びたる褒章	兵庫	風待ラテ	石蔵の涼氣に眠る樽の味噌	埼玉	宥光
余花に逢ふ山懷の小さき寺	兵庫	福田光博	新緑の新十津川やホ句の旅	石川	辰巳昌彦
紅を引く山車先導の乙女かな	兵庫	高市敦之	天竺まで続く空あり夾竹桃	奈良	豚々舎休庵
風音を天より届け樟若葉	兵庫	辻田あづき	加賀路行く山はむらさき風みどり	石川	伊東弥太郎
鯰跳んで水の匂へる薄暑かな	兵庫	高橋純子	青葉風路地の幅に東山	兵庫	キートスばんじょうし
虚子館の桂若葉に馴染む句碑	兵庫	玉手のり子	のの字描き跳ね上ぐ竿や初鰹	東京	宮村土々
リラ冷や要らなくなつた車椅子	兵庫	岩鼻絹子	ここちよき鳥の声連れ初夏の風	兵庫	矢車星風
芦屋にも草笛を吹く子のをりて	兵庫	藤井啓子	麦笛にわがたましひの色を足し	神奈川	進藤剛至
母許りの母は聞き役新茶古茶	兵庫	岩水ひとみ			
山鳥の尾羽チラリチラ夏は来ぬ	兵庫	松本 守			
夏空に未来の原画パビリオン	神奈川	小林 心			